

# 相模原商工会議所 景気観測調査結果

(2019年10月～12月)

2020年1月31日

**業況DIの悪化は全業種に広がり、製造業と小売業・卸売業を中心に厳しい状況に落ち込むが、減退のスピードは緩みつつあり建設業を中心に回復の兆しもみられる。**

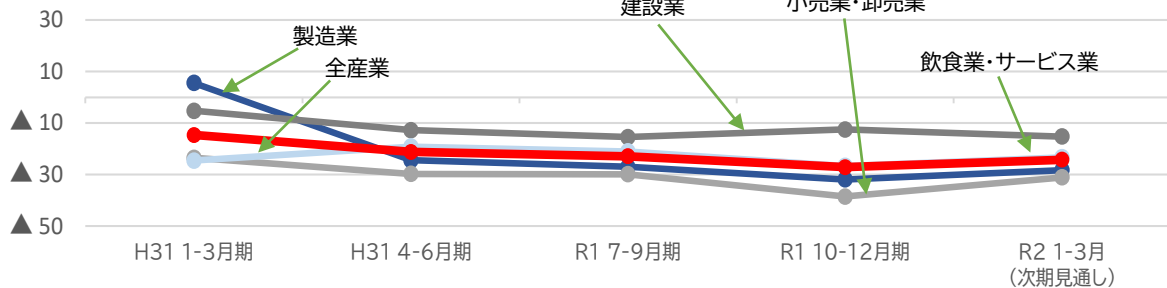
## ポイント

- ▶ 2019年10月～12月期の総合業況DIは▲27と、前期▲23から4ポイントの悪化。製造業(前期▲27・今期▲32)、小売業・卸売業(前期▲30・今期▲39)、飲食業・サービス業(前期▲21・今期▲27)は前期よりも大幅に下落し、景況は厳しさを増している。建設業(前期▲15・今期▲13)は、若干ではあるが、改善の兆しが見られる。
- ▶ コメントによると、本年春からの国際的な貿易摩擦により不況に陥っていた製造業の落ち込みに底が見えてきた一方で、その影響が他業種に及び全業種で景況が悪化した。働き方改革の動きによる最低賃金上昇や有休取得の義務化などによる人件費の上昇を訴える声が増えている。消費税増税による仕入れ費用の上昇やキャッシュレス対応による手数料の発生についてもマイナスの影響を指摘する声が見られる。サービス業では、相模大野での大型店の撤退の影響も出ているようである。
- ▶ 次期見通しについては総合業況DIは▲24と、今期▲27から3ポイントの改善。製造業(今期▲32・次期▲28)、飲食業・サービス業(今期▲27・次期▲23)、小売業・卸売業(今期▲39・次期▲31)は、いずれも景況の改善が期待される。建設業(今期▲13・次期▲15)は若干の悪化の見通しである。

## 各業界から寄せられたコメント

- ・【自動車機械設計、製作、販売】海外情勢不安の長期化により10月より受注量の低下。来年初旬よりゆるやかに回復傾向。
- ・【防水工事】材料代等の値上り、従業員の有休など厚生費の費用への支出は年々増えるが、工事代金は上がらない。
- ・【自動車小売業】キャッシュレスでカードなどが増えて、当社負担の手数料が増えている。メーカー、問屋などからの仕入れにカードを使用したい。
- ・【仲介業】伊勢丹の撤退等、相模大野のエリア的な景気衰退傾向の影響が大きいと感じる。

業況別(総合判断) DI値の推移



	前々期概況 (H31.4-6)	前期概況 (R1.7-9)	今期概況 (R1.10-12)	次期見通し (R2.1-3)
製造業	▲24	▲27	▲32	▲28
建設業	▲13	▲15	▲13	▲15
小売業・卸売業	▲30	▲30	▲39	▲31
飲食業・サービス業	▲19	▲21	▲27	▲23
全業種 (総合)	▲21	▲23	▲27	▲24

業況天気図凡例

快晴 DI値 ▲1以上	晴れ DI値 30～11	薄曇り DI値 10～▲10	小雨 DI値 ▲11～▲30	雨 DI値 ▲31以下
----------------	-----------------	-------------------	-------------------	----------------

調査期間：2019年10月1日～12月31日

回答率：26.1%

回答者数：999社

調査対象：当所会員事業所3,833社

<<景気観測調査>>

前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。

担当：共済検定課 渡貴(晴)  
TEL:042-753-8134